



高橋余一の「生活絵巻」

06 嫁入り



美しい白無垢姿のお嫁さんを見るのは、日常の暮らしの中でも晴れがましいことであり、お菓子が配られ、近所中でお祝い気分になりました。

絵巻には、お嫁さんが乗る人力車は漆塗りで豪華だったこと、古井あたりの習わしで、嫁ぎ先の家が近くなるとげたをわら草履に履き替え、家に着くと里方（実家）へ戻れないように、その鼻緒を切つて屋根に放り投げたことなど、絵巻には「嫁入り」にまつわるさまざまな事象が描かれています。

また、うたげでの亭主役（進行役）の滑稽な様子や嫁入り道具など、よく観察して記録されています。

〔時計回りに〕
ワラ草履 嫁御の履物

〔下の図〕

三々九度の盃が汲み交わされる度毎に次室に控えた亭主役はするめを一箸つはさみ乍ら「お着これに……。」と口上を申します。するめを細かくしたもの
お酒つぎには女の子が振袖を着てカンザシを挿して当ります。

■ うたげの様子

